

平成18年度施政方針

キーワードは「共汗・共学・共生」

市民の皆様と共に手を携えて、次世代に誇りを持って引き継ぐことのできる「こころ豊かなふるさと白石」の実現を目指します。

第359回白石市議会定例会が、2月14日から3月6日までの日程で開催されました。今回の議会では、各種条例の制定や一部改正、平成18年度一般会計および特別会計、水道事業会計の当初予算など計42の議案が原案の通り可決されました。

市議会開会日の2月14日、風間市長から平成18年度を迎えるに当たったの施政方針が表明されましたのでお知らせします。



我が国は、長期的そして継続的に人口が減っていく人口減少社会に突入するとともに、急激に進展している少子高齢社会、そして団塊の世代の退職により労働人口が激減する社会が目前に迫ってきており、世界中のどこもが経験したことのない時代を歩んでいかなければならず、早急な社会保障制度の改革や時代に合った雇用システムの確

立などが求められております。

地方におきましては、三位一体改革による補助金削減により約3兆円の税源移譲が図られるものの、地方への権限移譲が進まない中で、地域の実情に合わせた特色ある地域社会の創出が求められているとともに、市民に一番身近な基礎的自治体としての役割を果たしていかなければなりません。

また、一部ではデフレを脱し回復してきたといわれる景気も、地方ではまだ実感できるものではなく、地方自治体においても地方交付税制度の改革などにより、財政環境はますます厳しい状況になることが考えられます。

こうした状況の中、私が市長に就任して1年3カ月が経ちましたが、この間、地区公民館への指定管理者制度導入などにより、各地区ごとの特色ある地域づくりの芽が確実に育ってきていることを実感しております。

住宅耐震診断助成事業」「スクールゾーン内危険ブロック塀等除却事業」についても継続実施してまいります。

また、地震発生時の人的被害を抑えるため、地元の建築士会白石刈田支部と連携を図りながら「家具転倒防止対策」を支援してまいります。

教育施設の安全対策といたしましては、福岡小学校、深谷小学校、大鷹沢小学校、白石第一小学校、白石中学校の各体育館の耐震補強工事を現在行っており、残る白川小中学校の耐震補強工事につきましては平成18年度中に実施し、市内小中学校すべての耐震補強工事を完了させることで、安心して学べる教育環境の整備を図ってまいります。



▲耐震補強工事を実施する白川小学校（左）と白川中学校（右）

平成15年度で終了した土地分類細部調査事業の成果である土地に関するさまざまな電子地図データをベースとして、平成17年12月に統合型GIS（地理情報システム）が稼働しており、これまでハザードマップの基礎データなどとして活用してまいりましたが、今後各種行政施策へのさらなる有効活用と電子地図データの公開に向け、GISデータの内容充実とセキュリティ対策の向上を図ってまいります。

■賑わいと活力のあるまちづくり

次に、賑わいと活力のあるまちづくりを進めるために、地域からの発想および資源を生かした地域づくりを推進するための支援策として、**昨年**に引き続き「地域コミュニティ育成支援事業（やる気応援事業）」を実施し、地域づくりに取り組む小規模な団体に対し補助金の交付を行うほか、新たに活動用備品の貸し出しを行います。そして、それらの活用団体を「やる気隊名簿」に登録し、各種市民活動に協力する団体などの育成を進めながら、地域コミュニティの醸成を図ってまいります。

また、活力ある活気に満ちた白石を創り上げていくために、生涯学習強化月間にこだわらず「白石市生涯学習フェスティバル事業」を実施し、市民が生涯学習に接する機会を広く設け、「ひとづくり」「まちづくり」の推進を



本年も、これら地域の個性を活かし、本市が持っている自然環境、人材、文化・スポーツ施設などの財産を有効に活用しながら、引き続き「共汗・共学・共生」をキーワードに「安全・安心なまちづくり」「賑わいと活力のあるまちづくり」「人にやさしいまちづくり」を柱として、市民の皆様と苦楽を分かち合いながら共に手を携えて、次世代に誇りを持って引き継ぐことのできる「こころ豊かなふるさと白石」の実現に向け全力を尽くしてまいります。

■安全安心なまちづくり

まず初めに、安全安心なまちづくりといたしまして、平成17年度に自治会を単位とした防災地区懇談会を開催し、防災マップを全戸配布しておりますが、今後「自主防災組織育成支援事

図ってまいります。

さらに、利用しやすい市民の生涯学習の場としての図書館を目指し、木曜日の午後7時までの開館時間の延長、図書館ボランティアの受け入れなど、市民との協働による図書館づくりに努めてまいります。

古典芸能伝承の館「碧水園」は、本年開館15周年を迎えます。これを記念して、本市で初めての「**新能**」を**白石城本丸内**において開催いたします。第一部といたしまして、地元能楽愛好者や子ども能楽教室の受講者の発表、第二部といたしまして能楽師による公演を行い、伝統芸能の普及のみならず青少年の健全育成や世代間交流、そして文化の薫り高いまちづくりの推進を図ってまいります。



▲白石城本丸で薪能を開催（写真はイメージ）

業」などにより、各自治会による自主防災の組織づくりを支援してまいりますとともに、災害時に備えた資器材を計画的に備蓄するなど、防災関係機関との防災体制の連携強化を図り、行政・市民・事業所などが一体となった計画的かつ柔軟な災害対策の推進を図ってまいります。

また、災害時に対策本部が設置されることになっている市庁舎につきましては、築30年を経過し老朽化しておりますことから、災害対策本部としての機能が麻痺し対応に支障を来すことの無いように、平成18年度中に耐震化工事を完了する予定になっております。

全国各地で幼児、児童誘拐殺人事件など憂慮すべき事件が発生しておりますことから、不審者情報や災害情報など、行政と市民が素早く情報の共有を図ることにより防犯、防災意識を高め、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指し、防犯、防災に関連した情報や緊急連絡などを、携帯電話のメール配信サービスを活用してお知らせする「しろいし安心メール」を本格稼働いたします。

住宅などの地震災害予防につきましては、想定される宮城県沖地震に備えるため、平成17年度まで宮城県の補助事業として行っておりました「木造住宅耐震改修工事助成事業」が廃止となることから、平成18年度は本市の独自事業として実施するとともに、「木造

また、本市の生涯スポーツ振興のシンボルとなっており「みやぎ蔵王高原マラソン大会」も、本年第20回を迎えることとなり、記念大会として市民のみならず県内外からもさらに多くの参加者を得るようPRを進め、本大会の一層の充実と拡大普及を図ることで、スポーツによる地域活性化を進めてまいります。

交流人口の拡大や定住人口の増大、中心市街地の活性化対策としましては、昨年12月に「白石市やまびこプラン」を策定し、本市の豊かな自然、歴史、文化などの地域資源をアピールするとともに、空き家・空き店舗情報の提供や田舎暮らし体験募集などを、市のホームページで紹介するUIJターン支援情報サービスを開始したところですが、今年度は子育て支援など実際に本市で生活してからの支援策など、きめ細やかな情報を盛り込むことで、支援情報内容の充実を図ってまいりますとともに、田舎体験メニューにつきましては、**事業主や宿泊施設などとも連携し「体験」「泊」「食」の一体交流型**への転換を進めてまいります。

また、昨年3月に完成いたしました「**すまいるひろば**」の積極的な活用を図るとともに、地元商店街組合やまちづくり株式会社などのイベント計画を十分検討の上、支援してまいります。

経済対策につきましては、本市独自の再就職促進奨励金と中小企業振興資